

# 山梨

甲府総局  
〒400-0032  
甲府市中央1-12-38  
☎ 055-235-7000  
fax 055-237-4469  
社説 ☎ 0555-23-0353  
大月 ☎ 0554-22-0227  
南アルプス ☎ 055-284-7210

購読・配達のご用は  
☎ 0120-33-0843  
(7:00~21:00)  
広告のご用は  
☎ 055-228-5100

第3種郵便物認可

## 登山道の廃屋どうする

### 富士山の世界遺産登録へ協議始まる

# 景観損ねる撤去を 歴史の一部保全を

# 現場発

富士山5合目までの登山道に残る朽ちた小屋や茶屋は、世界文化遺産登録への「足かせ」なのか、それとも歴史的な「遺産」なのか。ユネスコの諮問機関・国際記念物遺跡会議（イコモス）の現地調査を夏に控え、地元では廃屋をどうするか協議を開始。23日には富士吉田市長が現地を視察した。

#### ●市長らが視察

この日、吉田口登山道を5合目からふもとまで3時間半ほどかけて、堀内茂市長や職員らが歩いた。市長はキャップをかぶり、リュックサックを背負う。市歴史民俗博物館の学芸員に、朽ちた茶屋や山小屋の歴史的背景を説明された。



朽ちている廃屋。かつて多くの登山者がここで屋敷をとったという富士山吉田口登山道5合目。柱が朽ちかけた廃屋に入り、「撤去しないと危険」と語る堀内茂市長（左）と富士山吉田口登山道5合目付近



屋の歴史的価値、撤去する場合に必要な学術調査について質問していった。新緑の木々、歩きやすいところもあれば、風雨で木

富士山信仰の拠点もっと広い論議を  
渡辺豊博・都留文科大文学部社会学科教授（富士山学）の話 吉田口登山道の全体が世界文化遺産の構成資産だと考える。今まで

5合目までを悲惨な状態のままにしておいたことは信じられない。廃屋は富士山信仰の拠点として、信仰の山を示すものとしても重要な資産だ。もっと議論を広げ、どう保全し、伝えていくかを考えてゆくといい。

が倒れているところもある。登山者でにぎわっていたころ見晴らしがよかったといわれるポイントも、生い茂った樹木が視界を遮り、ふもとの景色を染しめる場所は多くはない。

山道の途中には、屋根はあるが崩壊するおそれのある山小屋や、修復・補強すれば営業が再開できそうな茶屋も残る。つぶれて、トタン屋根だけが地面に重なっている残骸もあった。

倒壊の危険性がある建物を目の当たりにし、市長は「即時撤去したい」と語った。だが、登山道には車両や重機が入れないところも多く、実際に撤去するとなると、費用がかさむといった課題に直面する。

これらの茶屋や山小屋は1964年、富士山5合目につながる有料道路「富士スバルライン」が開通したことで、ふもとからの登山者が減り、廃業に追い込まれた。

#### ●道路でき衰退

廃屋がある土地はすべて県有地だ。富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合

が借り、建物の所有者に入会権に基づき「分割利用権」を与え、年間数千円の利用料を徴収している。

市歴史民俗博物館によると、吉田口登山道は平安末期には存在していたとみられる。廃屋の場所には、茶屋などが遅くとも江戸後期にはあったと考えられ、現在の所有者が代々受け継いできたものだ。廃屋のなかには江戸や明治、大正時代に建てられたものもある。

#### ●近く整備構想

歴史的価値があり、県有地にあるため、建物の所有者のほか環境省、県との協議が必要になるが、その前に組合との間で大まかな方針を打ち出したい考えだ。

市富士山課によると、5合目からの登山道は、ふもとからの登山道は春から秋にかけて登ることができ、小鳥のさえずりや新緑、紅葉も楽しめる。週末にはトレイルランを楽しむランナーも少なくない。

このため、市は「山頂をめざすだけではなく、5合目までをゆっくり楽しむ登山者が増えてくれれば」と期待を寄せる。だが、途中で休憩できる茶屋がひとつもないのが現状だ。

視察前に「1、2軒は登山者のために茶屋を修復し、再開できれば」と話していた堀内市長。23日の視察を終え、「すべて復元するのは現実的ではない。撤去の方針は変わらない」と改めて持論を示した。

市富士山課によると、5合目からの登山道は春から秋にかけて登ることができ、小鳥のさえずりや新緑、紅葉も楽しめる。週末にはトレイルランを楽しむランナーも少なくない。

市富士山課によると、5合目からの登山道は春から秋にかけて登ることができ、小鳥のさえずりや新緑、紅葉も楽しめる。週末にはトレイルランを楽しむランナーも少なくない。

(菊地雅敏)